



安心安全な暮らし

布田 恵美



問 男子トイレに尿漏れパッドなどを捨てるサニタリーボックスの設置を求める深刻なニュースが報道されていた。その中で、女子トイレには当たり前に設置されているサニタリーボックスが男子トイレにはないために不自由している事例を見聞きした。現在紙オムツの使用人口は大人377万人で、342万人の子どもよりも上回っている（2020年日本衛生材料工業連合会まとめ）。国立がん研究センターによると、男性では術後に尿漏れの後遺症に悩む前立線がんが最も多くなっている現状もある。がんや加齢で尿漏れパッドを使用する人がいても、交換した物を捨てる場所がなくて困っている声も日本トイレ協会が今年2月に行ったアンケートにもある。庁舎内男子トイレを職員立ち会いのもと調査したが、サニタリーボックスは見当たらなかった。民間企業でも必要な人が困らぬように設置の動きが出ている。ぜひにサニタリーボックスを設置することを進めてほしいと考えるが、どうか。

総務部長 今後、他自治体の状況や、民間企業の状況等を参考にし、男子トイレへの設置についても検討していきます。

早急な取り組みを進めて

問 他の自治体を調査するとあつたが、よそでやっていないからやらなくていい、ではない。中には使用済みの数個をかばんに入れて持ち帰る人もいる。男性特有の臓器・前立腺の病気が増え、困っておられる方々の声にならない声も増えていることも踏まえて、ぜひ早急に取り組みを進めていってほしいと願うが、考えはどうか。

市長 総務部長答弁にもあつたように、なるべく早く他自治体を調査研究して、検討を進めていきたいと思ひます。

◎その他の一般質問

- ・ 防災・減災事業の推進
- ・ フードドライブ事業



津波避難計画の改定等

酒井 信幸



問 宮城県が公表した悪条件下における最大クラスの津波浸水想定に関して、沿岸の対象自治体に先駆け、3回の説明会が行われた。市民の皆さんへの速やかな情報提供や、津波浸水想定に関して認識と理解を深めることを目的に説明会を行ったが、住民の皆さんは非常に不安を持ち、戸惑い、混乱している。津波避難計画の改定と津波ハザードマップの作成はいつまでに行うのか。

今後研究、検討をしていきたいと考えます。

問 津波避難計画を改定するに当たり、避難の在り方を沿岸部住民の方としっかり話し合う機会を持ち、理解と協力を得た上で策定する必要があると思うがどうか。

総務部長 沿岸部の皆さまとの話し合いは重要と認識しています。地域に入つて十分な意見交換等を行い、地域の方々の声を参考にしながら津波避難計画を改定するようになっています。

問 令和4年度末までに作成する予定です。

民間施設に協力の要請を

問 コロナ禍で指定避難所が12カ所となり、収容人数も少ない現状となつている。想定外以上のことを念頭に置き、民間の施設を避難所に要請する考えはないのか。

総務部長 命を最優先に考え、一時避難場所的な意味合いであれば安全な高さを確保できる民間事業者に対して協力の要請を検討するようになっています。

市長 一時的な避難所であれば、

総務部長 命を最優先に考え、一時避難場所的な意味合いであれば安全な高さを確保できる民間事業者に対して協力の要請を検討するようになっています。

- ◎その他の一般質問
- ・ 企業誘致